

# 佐賀大学利用者 Web システムを使おう

学術情報処理センター 日永田 泰啓 (hieida@cc.saga-u.ac.jp)

## 概要：

本稿では、学術情報処理センターが提供する「Web による情報発信」手段、すなわち、学内公開用 Web server および学外公開用 Web server について簡単に紹介します。

---

## 1 はじめに

今や「Web による情報発信」は普通的手段です。あまりにも普通になってしまって、講義ノートを Web で配る先生も増えているので、講義の教科書を学生さんに買ってもらうのが難しくなりつつあるくらいですね。たとえば、講義で見せた説明資料を Web に置いておけば(この置き場所を、オンラインシラバス[1]から link して活用している教官もいます)、受講生はいつでも閲覧できます。講義前に Web に用意しておき、予習教材としてもらうという使い方もあるでしょう(実際にそのような講義をされている教官もいます)。最近ではノートパソコンを持っている学生さんも増えつつあります(なにせノートパソコンが安くなりましたから)。そのような学生さんの中には、上記の講義資料(印刷するとかさばる!!)や辞書類をノートパソコン内に取り込んでいる人もいます。そのような人は、たとえ長時間かけて通学していても、帰りのバスや電車内で講義の復習が可能かもしれません。

講義の説明資料を Web で見せるメリットの一つは、枝葉の部分はリンクできることでしょう。そうしたリンクは講義の復習時や宿題・演習問題をやってもらう時に参照してもらうのです。このようにすると、講義では講義内容の幹(概要)を理解してもらうことに集中してもらえるかもしれません。とくに資料をたくさん使う講義では、このような説明方法が役立つかもしれませんね。

Web を使う別の例を挙げます。論文や雑誌の記事において、与えられたスペースに盛り込めなかった情報が Web に置かれることはしばしばあります。そのような情報は必ずしも著者自身が発信する情報に限られません。他人が有用な情報を Web に置いてくれたなら、その置き場所(URL)だけを書いておくと、関心のある読者はより詳しい情報を得ることができます。たとえば本稿はそのような書き方になっていて、参考文

献の一部は URL になっています。

Web を閲覧するための手段も豊富になりつつあります。ノートパソコンを持ってない学生さんも、Web を閲覧可能な携帯を持っているかもしれません。ノートパソコンに限らず、PDA と呼ばれる携帯可能な情報機器でも network を介して Web を閲覧できるものが増えてます。このようなわけで、「Web による情報発信」の重要性がどんどん高まりつつあります。

さて、上で「説明資料を Web に置く」と書きました。そのためにはどんな手段を用意しないといけないのでしょうか？たとえば、その「置き場所」専用のパソコンを購入し、日常的に(面倒な)管理作業をやらねばいけないのでしょうか？答えは「いいえ」です。本学の教職員及び学生さんに対しては、学術情報処理センターがその手段(学内公開用 WEB server(第2節参照) および学外公開用 WEB server(第3節参照))を提供してます。本稿ではこの「Web による情報発信」支援サービスの概要について説明します。これを活用するかどうかは、あなた次第です。

## 2 学内公開用 WEB server

佐賀大学内部にだけ公開したい場合に利用できる server です。学生さん、教職員ともに申請無しでいきなり使えます。つまり、指定された置き場所にファイルを置くだけで情報発信できます。

このサーバの目玉は何と言っても、PHP[2] や CGI(perl と csh)が使えることです。このため、動的なホームページも作れます。

使い方等、より詳しいことについては、

<http://userwww.cc.saga-u.ac.jp/>

を参照して下さい。

## 3 学外公開用 WEB server

佐賀大学の外部、内部を問わず公開したい場合に利用できる教職員用server です。現在は試験運用中で、CGI や PHP は使えません。使うには申請が必要です。

(申請方法も含めた)より詳しい使い方は、

<http://extwww.cc.saga-u.ac.jp/>

を参照して下さい。

## 4 お手軽な利用法

情報発信の際のフォーマットの一つである HTML ファイルの作り方については、例えば、「学術情報処理センター広報」のバックナンバー[3]の記事[4]や市販の本、インターネット上のホームページ等を参考にして下さい。なお、学内でサイトライセンスするようになった StarSuite[5]には

ゼロから HTML ファイルを作成する機能

ワープロ文書(Word 文書を含む)を HTML へ変換する機能

表計算ドキュメント(Excel ファイルを含む)を HTML へ変換する機能

があります。この StarSuite を利用するのも一法でしょう。

もっとも、ファイルのフォーマットは何も HTML に限られません。

単なるテキスト・ファイル(plane text file)

携帯電話のカメラによる画像ファイルや、レポート用紙に走り書きしたメモをスキャナで取り込んだ画像ファイル

アプリケーションによる文書を、PDF ファイルに変換したもの(たとえば StarSuite[5]を使うと、WORD 文書や Excel ファイルを PDF に変換することができます。)

これらによる情報発信も場合によっては多いに役立ちます。皆さんの工夫次第なんだと思います。

普通は、以上のようなファイルを配布する(ダウンロード可能とする)時は、各ファイルへのリンクを一覧にした HTML ファイルを Web server に置き、読者がそれをクリッ

クするだけでダウンロードできるようにするでしょう。

しかし、各ファイルの置き場所を直接示す URL を教えることでも、ダウンロード可能です。

例を示します。あなたの User ID(学術情報処理センター利用者名) が ``user\_a" だったとしましょう。そして、 ``a.txt" という名前の テキスト・ファイル を学内限定でダウンロード可能にしたいとしましょう。この場合は、そのファイルを、演習室の W-drive と呼ばれるフォルダに置きます。もしくは(じつは同じ場所ですが) kanzaki.edu.cc.saga-u.ac.jp の自分のホームディレクトリ(~)の下の public\_html(~/public\_html)以下に置きます。あとは、ダウンロードしてもらいたい人に、

```
http://userwww.cc.saga-u.ac.jp/~user_a/a.txt
```

という置き場所(URL)を教えて、ダウンロードしてもらいだけです。ただし、ダウンロードしてもらい前に自分のブラウザ(Netscape, mozilla, wazilla, Internet Explorer, w3m 等)でその URL を見てダウンロードできることをチェックしておきましょう。(ダウンロード時にファイルを保存する必要があるかもしれません)。

このような使い方も場合によっては役立ちます。たとえば、あるファイルを佐賀大学内の人たちに見て欲しいけれど、ファイル容量が大きいのでメールに添付できないような場合です。[6]

## 5 ファイルの置き方

第4節では、ファイルを適切な場所に置くことが前提になっていました。この前提をクリアするには、以下の3つの手段があります。

1. 学術情報処理センター演習室内のパソコンを使う。
  - これについては、第4節でも紹介した文献[4]を参考にして下さい。
2. 手持ちのパソコンを使う。
  - SSH(の scp) を使って kanzaki.edu.cc.saga-u.ac.jp の各自のホーム以下の適切な場所に置く。
  - 手持ちのパソコンが Windows の場合の、scp の使い方については、[7]が参考になるかもしれません。

3. FTP を使う。
  - security 的によろしく無いので、おすすめしません。

---

## 参考文献

- 1 <http://syllabus.dl.saga-u.ac.jp/syllabus-docs/>
- 2 <http://www.php.net/>
- 3 「学術情報処理センター広報」のバックナンバー(PDF file 版)は、  
[http://www.cc.saga-u.ac.jp/backnumbers/public\\_info.htm](http://www.cc.saga-u.ac.jp/backnumbers/public_info.htm) から入手可能です。
- 4 日永田泰啓「ウェブを使おう - 演習室Windowsマシンで自作ウェブ・ページを公開しよう - 」 ([3] の第3号の記事)。
- 5 Linux, SolarisSparc, Windows の各 OS に対応してます。download 方法等の詳細については、  
<http://userwww.cc.saga-u.ac.jp/center/starsuite/> を参照して下さい。
- 6 佐賀大学での、メール一通あたりの最大サイズは決まっています。詳しくは  
<http://www.cc.saga-u.ac.jp/use/guidance.php> を見て下さい。(他の大学やプロバイダでも最大容量は普通決まっていて、それを越えるとメールが配布されません。)
- 7 <http://www.cc.tsukuba.ac.jp/WinSCP/>

---

本稿の LaTeX 原稿作成には、Debian GNU/Linux(<http://www.debian.org/>) 上の GNU Emacs (<http://www.gnu.org/software/emacs/emacs.html>) を用いました。